

# 令和 7 年度 三好市立学校評価報告書

学校名( 櫛生小学校 )

作成日 令和8年3月2日

校長名( 石丸 秀樹 )

## 1 総括評価

| 評価分野                | 自己評価<br>(平均値) | 自己評価結果の概要  | 学校関係者評価の概要   | 次年度の改善策  |
|---------------------|---------------|--|--|--|
| ① 学校経営及び学校運営に関する評価  | 3.9           | <p>本年度は、学校教育目標の具現化を中核に据え、学校経営、教育課程の編成・実施、授業改善、生徒指導、道徳・人権教育、学力向上、地域連携、教育環境整備等を計画的かつ組織的に推進した。小規模校の特性を生かした迅速な情報共有と、一人一人に寄り添う丁寧な指導体制により、児童が安心して学び、生活できる環境づくりは着実に進んでいる。行事の精選や地域資源の活用も成果を上げ、学校への満足度は高い水準にある。</p> <p>一方で、基礎・基本のさらなる定着、主体的・対話的で深い学びの一層の充実、ICT活用の効果的な展開、業務改善の推進など、質的向上に向けた継続的な取組が必要である。全体として、学校運営は安定的に推進できていると評価する。</p> | <p>学校運営協議会をはじめとする学校関係者からは、教育目標が明確であり、日々の教育活動に具体的に反映されているとの評価を受けた。また、少人数の強みを生かした丁寧な指導や、温かな人間関係の中で児童が生き生きと活動している姿について高い評価が示された。地域との連携や情報発信の充実も信頼関係の構築につながっているとの意見が多い。</p> <p>その一方で、学力向上に向けた取組のさらなる充実や、交流活動の効果の明確化、持続可能な学校運営体制の構築への期待も示された。</p> | <p>次年度は、教育活動の成果をより具体的な指標に基づいて検証し、PDCAサイクルを一層強化する。特に、授業改善と学力向上を重点課題とし、基礎・基本の定着とともに、思考力・判断力・表現力の育成を図る。また、ICTの効果的活用を推進し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を目指す。あわせて、業務改善と働き方改革を進め、教職員の健康保持と教育の質の向上を両立させる。学校・家庭・地域が連携し、「楽しく生きる学校づくり」の理念をさらに深化させていく。</p> |
| ② 教育目標及び教育計画に関する評価  | 3.8           |  |  |  |
| ③ 主要な教育活動に関する評価     | 3.8           |  |  |  |
| ④ 保護者や地域との連携に関する評価  | 3.8           |  |  |  |
| ⑤ その他、上記以外に関する評価( ) | 3.7           |  |  |  |

(1) 4段階評価とする。

評価基準 4=達成度が 80～100 %  
 3=達成度が 50～ 80 %  
 2=達成度が 30～ 50 %  
 1=達成度が 30% 未満

(2) 総括評価表の「評価(平均値)」については、「2 分野別評価」の(1)～(5)の評価をそれぞれ平均(小数第1位)したものととする。

(3) 分野別評価の「評価項目」の「その他」については、各学校において必要事項を記入のうえ評価する。

(4) 総括評価の「評価分野-その他」の項目の( )には、分野別評価の「(5) その他に関する評価」の中から、特に重要視する事がらを記入する。

(5) 総括評価及び分野別評価の「学校関係者評価の概要」欄は、学校関係者評価委員会(学校運営協議会も可)において評価された結果をまとめたものを記入する。

(6) 「次年度の改善策」の欄は学校評価委員会及び学校関係者評価委員会において協議された改善策をまとめたものを記入する。